

昨年はず想定外に好調だった我が国の新設住宅着工戸数だが、人口減少社会の到来でいずれ新築減少は既定路線となる。新築依存からリフォームや非住宅への拡充、さらには海外市場をにらんだリエネルギー分野に活路を求めたりと、各社は生き残りをかけた取り組みを行っている。自社の強みと弱みを見極め、今ある経営資源をフル投下して次の一手を打ち出している次世代経営者に登場してもらおう。

社員満足が顧客満足をつくる

原野剛行氏(ウッドリンク社長、40歳)

私は2016年6月、サービスの価値を高めた3次元実大振動実験に4代目社長に就任し、ウッドリンクファクトリーを増やしウッドリンクの経営者として実現したい経営ビジョンは、ウッドリンクブランドを確立する

の確立と中小企業から長期持続型構造「ナレウォール工法」での第一に自社の製品・日本初の積雪を考慮し

た3次元実大振動実験で、繰り返し地震に



原野 氏

強く、耐震性があることを実証した。さらに実験結果をエンドユーザーに公開することで、地元工務店支援にもつなげてきた。

また、製材事業部で杉の破風板や桧製品の販売を進め、当社の製品技術を生かした商品開発に力を注いできた。当社の取り組みをエンドユーザーに伝えていくためにはウッドリンクラボの活用が必要不可欠となる。ラボでは木材、省エネ、耐震にかかわるコンテンツを充実させ、楽しみながら当社の商品を体験できる仕組みづくりを行っている。

20年までには中小企業から中堅企業への成長を目指す。具体的に

は安定した収益基盤をベースに社員が働きやすい職場の環境づくり、充実した福利厚生設備など社員が仕事に喜びを感じ、誇りを持つる会社にしていきたい。仕事以外にも趣味や特技を生かした活動への支援など行いワークライフバランスの実現に向かっていく。

このビジョンを達成するためには社員第一主義経営とプロフェッショナルの仕事の実践、つまり「人にやさしく、成果に厳しく」といった独自の経営体制を整えていくことだ。

まず、社員第一主義経営として社員を育てる環境と仕組みづくりの整備、社員の自己実現を支援する。対してプロフェッショナルの仕事の実践として社員には仕事目的を明確にして、計画を具体的に決め、結果が出るまで諦めずにやり続けるように伝えている。その際に、事前準備と振り返りを徹底的に行えば9割以上で成功につながることも話している。当たり前のことを誰にも真似できないレベルで実践することが大切で、こうしたことが他社と圧倒的な違いを生むと考えている。

企業理念でもある社員満足度があつて初めて顧客満足度があつてくるもの。社員の成長が会社の成長につながることを確信しており、実現に向けて社員一丸となって邁進していく。